

# 週刊大貫のり夫

## 市政ファイル No.360



日本共産党横浜市会議員大貫のり夫議会報告

発行日：2012年10月3日(水)

事務所：〒227-0061 横浜市青葉区桜台29-6

### 2011年度決算特別委員会開会中

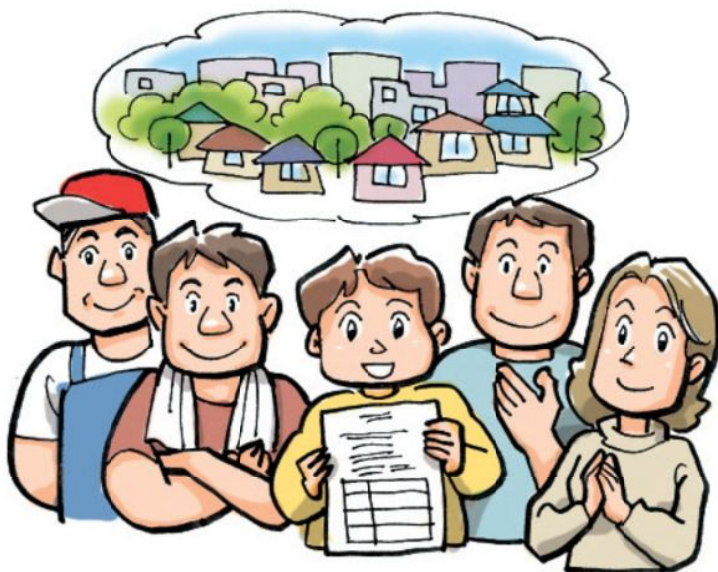
## 工夫次第で大きな財源ねん出できる！

2011年度決算特別委員会が9月27日から10月16日までの日程で始まりました。27日には林文子市長の出席のもとで総合審査が行われ、日本共産党を代表して岩崎ひろし議員が決算収支、福祉パス、防災計画

等について質問しました。

2011年度一般会計決算では、予算編成開始時には200億円の歳入不足だったのが、結果的には一般会計で274億円の不用額(予算額と実際の支出額の差)、実質収支57億円の黒字でした。岩崎議員は、「(予算を)より効果的に防災や福祉など重要な課題に活用するためには、議会や市民の声を反映させることが必要」とし、「一般会計予算1兆4000億円規模の横浜では、お金の出入りや資産等きちんと管理・工夫すれば、年度途中でも大きな財源を捻出できる条件がある」ことを明らかにしました。

(2面に続く)



**Twitter facebook** ご覧ください

## 市内業者に仕事がない高速道路工事

岩崎議員の質問で、2010年度の公共事業の市内業者への発注割合は、本市発注工事では81.4%であるのに対し、国等の関係機関が行う工事では約3.4%、首都高速道路(株)が発注する横浜環状北線工事ではわずか0.6%であったことが明らかになりました。

岩崎議員は、国主導の大型公共事業は市内経済の活性化には役立っていないと指摘。地元経済に役立たない大型公共事業への「選択と集中」は抜本的に改め、本市福祉施策の精神を象徴する福祉パスを絶対値上げすべきでないと主張しました。

## 防災計画はアクションプランで具体化

横浜市はこのほど横浜市防災計画「震災対策編」修正素案を公表し、市民意見募集を募集中です(10月31日まで)。岩崎議員は、防災計画は「人命被害ゼロ」を目標にすべきであり、しっかり財源の裏打ちをして実効性のある計画にするよう求めました。

林市長は、現行計画と同様に人命

被害も含めて被害を出さない地域・社会の実現を目標とすると応じました。また、計画に盛り込んだ様々な対策をいつまでにどれだけ実施するのかを明確にするためのアクションプランを作成し、国費を積極的に導入するなど財源確保の工夫を行いながら、確実に実行する決意だと述べました。

## 決算特別委員会局別審査の日程

9月27日(木) 総合審査

9月28日(金) 病院経営局・都市整備局

10月1日(月) 消防局・資源循環局

10月2日(火) こども青少年局・教育委員会

10月3日(水) 温暖化・環境創造局  
(大貫憲夫)

10月4日(木) 港湾局・経済局

10月5日(金) 市民局(大貫憲夫)、  
政策局

10月9日(火) 健康福祉局

10月10日(水) 水道局・交通局

10月11日(木) 建築局・道路局

10月12日(金) 総務局・財政局等

**直接、傍聴できます。市会HPでインターネット生中継がご覧になれます。終了したものの録画中継もどうぞ！**



# 教育への公的支出

①デンマーク	7.5%
②アイスランド	7.3%
③スウェーデン	6.6%
⋮	
OECD平均	5.4%
⋮	
<b>③1日本</b>	<b>3.6%</b>

経済協力開発機構（OECD）は11日、加盟国の教育施策に関する調査結果を発表しました。2009年の日本の国内総生産（GDP）に占める教育機関への公的支出割合は3.6%をOECD平均の5.4%を

## OECD調査

下回り、比較できる加盟31カ国中最下位でした。日本の最下位は3年連続。公的支出割合が最も高かったのはデンマークの7.5%で、アイスランドの7.3%、スウェーデンの6.6%が続いています。公的負担が少ないために授業料などの私費負担が国民に重くのしかかっています。日本の教育機関への支出のうち、授業料など私費負担の割合が31.9%。OECD平均の約2倍で、チリ、韓国に次いで3番目に重くなっています。10年の日本の平均学級規模は、小学校で28.0人です。

（OECD平均21.2人）、中学校も32.9人（同23.4人）で、それぞれ加盟国の中で2番目に多く、学習環境が悪いことも分かりました。

日本の小中高校の新人教員の平均的な年間法定給与は10年は2万5454ドルで、OECD平均（小学校2万8523ドル、中学校2万9801ドル、高校3万899ドル）を下回っています。OECDは「日本の新入教員の給与はもはや高くない、優秀な大卒者らを確保する際の課題となっている」と指摘しています。

2012年9月12日付けしんぶん赤旗より

# 3年連続 日本最下位

ヒロシマ・ナガサキ67年  
ジェット機墜落試験35年

**2012 平和のつとめ**

10月14日（日）午後1時45分より  
山内地区センター3Fホール

講演：蓮池 透さん  
「原発と放射能」

発言：椎葉寅生さん  
（被害者訴訟原告家族）  
大西進さん（作曲家）

参加費500円 学生無料

等

荏田北の米軍ファントムジェット機墜落から35年

# 悲劇は絶対繰り返させるな

1977年9月27日、厚木基地から太平洋沖に停泊している米空母ミッドウェーに向けて飛び立った米軍ファントムジェット機が、青葉区(当時緑区)荏田北の住宅地に墜落。林裕一郎ちゃん3才と康弘ちゃん1才とお母さん  
和枝さんの命を奪いました。あれから35年。二度と悲劇を起こしてはなりません。

当時私は、桜台で酒店をやっていました。昼食後、御用聞き注文品の配達を始めたとき、自衛隊のヘリコプターが何機も爆音を立てて桐蔭学園方面の空を旋回しているのを見えています。何か大事故があったなと直感しました。

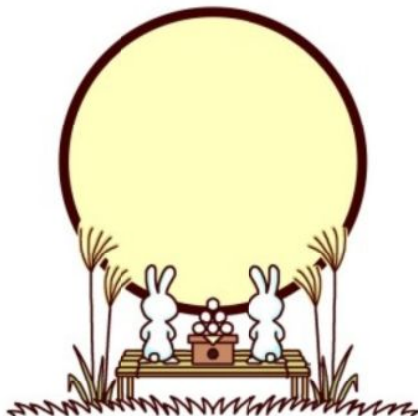
その自衛隊のヘリコプターが助けたのは脱出した米軍パイロットです。被害を受けた住民には見向きもしませんでした。ジェット燃



包帯を巻かれてベッドに横たわる康弘ちゃん(9月27日付しんぶん赤旗から転載)

料の炎に包まれた母子らを救い出し、青葉台病院(当時)に運んだのは、現場近くで宅地造成工事をしていた人たちでした。まさに、自衛隊は国民保護のためではなく、アメリカのためにあるのだということを明らかにしました。

“未亡人製造機”と呼ばれている事故多発の垂直離発着機オスプレイが、普天間基地に配備されようとしています。35年前の荏田北の墜落事故は、オスプレイを絶対配備させてはならないことを私たちに訴えています。



ミジソコの独り言 今年の中秋の名月は9月30日。あいにくの台風17号の通過と重なり、時・所によっては暴風雨で被害も。神奈川県では幸いにして夜半には雨があがり、雲の速い流れの合間から満月が姿を見せた。1日早朝、わずかに明るい東の空とは対照的に、西の空に満月が静かに悠々と輝いていた。(M)